



健康で豊かな生活を実現するスマートタンパク質工学
戦略的研究拠点年度末成果発表会

2016年3月24日（木）13:00-17:30
教育4号館4301

戦略的開発拠点形成事業について

山岸明彦

ビックデータを用いた高機能酵素設計

13:10-13:30

Non-homogeneous mode分子系統解析によって配列推定された祖先NDKの解析

横堀伸一

高機能化酵素応用技術の開発

13:30-15:30

好気性高度好熱菌の酸化防御に関する研究

時下進一

ROS発生系の開発

藤川雄太

過酸化水素発生素子となるD-アミノ酸の合成

小林豊晴

ROS発生系の生体応用：培養細胞を用いた応用

梅村真理子

ROS検出・発生系の生体応用：ショウジョウバエを用いた応用

森本高子

ラッカーゼによるポリフェノール重合と免疫活性について

大野尚仁

微細藻類における多糖の機能 藤原祥子、横堀伸一、中村保典（秋田県立大）

休憩

15:30-15:40

ナノ構造体設計技術の開発

15:40-17:20

ヒアルロン酸ナノ繊維の開発と三次元組織培養への展望

内田達也

バイオナノ構造体設計法の開発

山岸明彦

IPMDHタンパク質の凝集の粗視化シミュレーションによる研究

高須昌子

ループに変異を導入したLARFH変異体の分子動力学法による構造解析

宮川 毅

細胞外電子伝達タンパク質を利用した電気化学バイオセンサーの構築

高妻篤史